IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）広場運営者募集公募型プロポーザル審査講評

令和２年９月 25 日に実施した IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）（以下「広場」という。）広場運営者募集公募型プロポーザル選定会議の結果及び講評について、以下のとおり報告する。

Ⅰ　選定スケジュール

(1)公募期間

令和２年９月４日（金）～９月 23 日（水）

(2)審査日

令和２年９月 25 日（金）

(3)審査結果通知

令和２年９月 28 日（月）

Ⅱ　提案者数

３者

Ⅲ　参加資格

３者とも、参加資格を満たしていた。

Ⅲ　候補者選定結果

提案者１　不採用

提案者２　不採用

提案者３　採用

Ⅲ　審査基準及び項目別講評

(1)審査基準

①事業のコンセプト・事業内容の提案（10 点）

②市民が訪れたくなる場とするための空間の提案（20 点）

・魅力的で開かれた店舗装飾等の工夫

・使われやすい広場備品の配置等の工夫 など

③市民が訪れたくなる場とするための運営の提案（30 点）

・魅力的な事業を行う仕組みの提案

・収益性、公益性を両立しながら、自立した運営を行う仕組みの提案

・コロナ禍において、感染者を発生させず事業を行う対策の提案 など

④IBALAB@広場プロジェクトの趣旨を広く伝え、サポーターを増やす仕組みの提案（20 点）

・広場を訪れる人がまた来たいと思え、交流が生まれる工夫

・広場をつかう人同士がつながり、相乗効果を生む工夫 など

⑤これまで関わってきた企画実績等の評価（10 点）

※評価点は、委員による審査点の合計 630 点（90 点×７委員）

(2)個別講評

■提案者１

メインテーマを食と音楽にまとめた、わかりやすく魅力的な企画内容であったが、いろいろな人をまきこむ、市民の手で実際にやってみるといった仕掛けが少し弱いと評価された。また、音楽イベントの豊富な開催実績などから、安定した企画運営が期待され、にぎわい創出や広場の認知度向上の面が期待されるほか、飲食メニューについても、ランチ・カフェ・ディナーの３部構成を想定した興味を引くメニュー構成を提案しており、力を入れている部分として評価された。

定休日や営業のアイドルタイム等に、市内飲食事業者の宣伝を兼ねた出店機会を設けるなど、コロナ禍で苦しむ事業者の救済に繋がる提案も評価されるものであったが、事業者同士、また事業者と市民を繋ぎ相乗効果を生む工夫にもう一歩踏み込んだ記載を求める意見もあり、市民会館跡地エリアのコンセプトである「育てる広場」や、様々な人を繋ぐコーディネート機能への工夫が必要であると指摘された。

■提案者２

IBALAB@広場プロジェクトの趣旨である『様々なことを市民の手で実際に「やってみる」ことで、広場の管理・運営や市民の関わり方について検証を行い、「育てる広場」実現に向けた取組としていく』を丁寧に読み取り、計画書の随所に反映された提案となっている。

特に、コンセプトを「街と人。人と人とがつながる広場」とし、様々な年代や立場の市民が関われる企画や、人を巻き込む仕掛けに知恵を絞っている点が大変優れていると評価された。イベントではない日常利用における、大型テントによる個人ワークスペースの設置や、利用者が「あったらいいな」と思う遊具を出資（飲食メニューの応援料金）を募りながら充実させていく提案などは、「ハーフメイドの広場」を体現しており、広場を「人と人とがつながる場所」として、多様な市民を巻き込むことを意識している点が、高く評価された。

一方、飲食事業については、少し具体性が足りないという評価であった。茨木産の食材を準備し地産地消に努める提案は評価されたが、広場に来た人が、リピートしたいと思える飲食メニューの工夫が必要との意見もあった。また、飲食メニューの応援料金（定価＋α）についても、様々な考えの市民が訪れるなかで、通常料金と応援は分けるべきではといった意見も見られた。

■提案者３

提案内容全体のバランスが良く、実現性の高い内容となっていた。

「プレイヤーがカスタマーに、カスタマーがプレイヤーに」を合言葉に掲げ、広場を訪れた人全てが参加者であるというコミュニケーションのあり方は、「育てる広場」のコンセプトをしっかり捉えており、市が広場に期待している展開を理解して提案していると評価された。

飲食事業は、通常の飲食メニュー想定に上乗せする形で、市内飲食店宅配サービス（イーバーイーツ）との連携や地産地消、エコやフードロス対策など、これまで幅広い取組を実践してきた経験やネットワークを活かすものとなっており、説得力のある提案であると評価された。自主事業についても、多彩なイベントやワークショップの実施など、引き出しの多さが窺えた。

広場の設えの工夫については、通常営業時とイベント時の備品配置をそれぞれ提案し、さらに防災倉庫の装飾にも触れており、評価者にもイメージしやすく質の高い空間が表現されていた。

全体として、IBALAB の流れや「育てる広場」の方向性を捉えながら、提案者が持てるリソースをいかんなく詰め込んだ提案となっていたが、反面、日常使いにおける利用のし易さ、気軽に立ち寄れる仕掛けについて、工夫の必要性を感じる意見も見られた。

Ⅵ　総評

委託費や助成金などもなく、また、公共性と収益性のバランスという難しい運営を求められる事業にもかかわらず、3 者の市民及び市内事業者から応募いただき、そのチャレンジに大変感謝している。提案に関しては、短い募集期間のなかで多大な労力と時間を費やしていただき、その努力と熱意に対し身が引き締まる思いで審査を実施した。

評価においては、単に広場で飲食事業を行うのではなく、「IBALAB」の取組や「育てる広場」のコンセプトを理解しながら、いかに多様な主体が活動できる空間を作り出せる提案がなされているか、また、その実現性、すなわち未知なる企画においては、円滑なスタートと安定感のある運営が求められるといった点が最も重要な論点であったと感じる。

その視点からみると、提案者 2 の提案は様々な年代や立場の市民が参画でき、ハードルを感じず広場で何かやってみる、つい広場の取組を応援したくなる、そんな魅力的で先進的な多くの提案がなされていたが、飲食事業において、メニューや具体性の不足、収益確保の不確実性など、足場部分の弱さが指摘され、惜しくもマイナスの評価となった。

提案者 1 の提案は、音楽関係の企画や食の提案に魅力を感じるものであったが、多様な人を繋ぐコーディネート機能において具体性が不足しており、その点で評価が伸びなかった。

提案者 3 は、本業である飲食業と、これまでの実績に裏打ちされた実現性の高さ、まずは市民が訪れたくなる場の安定した運営が期待されることに加え、「プレイヤーがカスタマーに、カスタマーがプレイヤーに」と掲げたように、広場に関わる全ての人が場を構成し、育てていく場所にするというコンセプトがしっかり芯を捉えたことから、総合的に最も高評価の提案となった。

以上のことから、最も高い得点を得た提案者 3 を運営者候補者に選定するものであるが、得点は非常に僅差で、いずれの提案も非常に優れたものであったと感じる。今回は選定されなかった提案者においても、ぜひそれぞれの強みをいかし、広場の取組に関わっていただければと思う。

また、運営者候補者として選定された提案者３においても、提案者１、２のような素晴らしいパブリックマインドを持つ方々とは、ぜひ連携し、手を取り合って広場を育てていただきたいと思う。

今後、社会実験期間中は、日々試行錯誤が続くことが予想されるが、今までにない茨木の風景、あるいは活動の場として、魅力ある「育てる広場」が作られていくことを期待している。

令和２年９月 28 日

IBALAB@広場（茨木市市民会館跡地暫定広場）

広場運営者募集　プロポーザル選定会議